

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

松本県ヶ丘高校山岳部雪山歩き Part3(その2)

～雪の金松寺山・天狗岩・大明神山をぐるっと一回り～ 松田大記

登山道に入るが、不思議なことにそんなに古くないトレースがある。(数日前のものと思われる壺足の単独行らしい) 自分らのことを柵に上げ、世の中には物好きがいるなァーと変に感心。トレースがある分沈み込まずに楽だが、ルートファインディングの醍醐味が薄れる。しかし急登の途中でそのトレースは途切れる。雪が深くて諦めて引き返したものと推測した。其処からはいよいよ本格的なラッセルとなった。雪は思いっきり重い。初めのうちは殆ど雪の上に乗れるが時々膝上まで踏み抜く。それも後ろの者でも落ちるから始末が悪い。とてもリーダーのS君だけでは無理なので、ラッセル交代させながら進む。標高1300m付近から上は殆ど踏み抜きとなる。ワカンがあったらと一瞬思ったが、ワカンで踏み抜いたときの大変さは壺足以上である。(腐れ重雪をワカンで踏み抜くと、足を上げる際に引っかかってそれはモー大変、第一、県陵山岳部にはワカンが無い、生徒はワカン歩行の経験が無いから有り難みも大変さも判らない。これこそ知らぬ



が仏) 雪と悪戦苦闘するあまり、金松寺山登山道のランドマーク[枝垂れカラマツ]を発見出来ぬまま、巻き道と金松寺山頂への分岐を過ぎる。傾斜も緩く頂上までは直ぐと思ったのが甘く、グサグサの重たい雪に苦しめられ、林道終点から金松寺山頂まで何と1時間40分も掛かってしまった。眺望の利かない山頂で中休止、ロートルはかなり来ており、筒井Tは「もう雪山には登らないぞォー!!」

と悲痛な叫びを上げているが、生徒は元気一杯。

それにしても生徒の装備はお粗末である。曲がりなりにも雪山対応の靴とスパッツを装着しているのはリーダーのS君だけ。これほど何回もの積雪期の入山を考えていなかったもので、靴が無雪期対応の軽登山靴であることは仕方ないとしても、スパッツがレインスパッツでは対応が難しい。ろくに歩かないうちに下を止めるゴム紐が外れて雪で捲れ上がる。上の部分も踏み抜いた後足を引き抜くときに一緒にずり下がる。靴の中に物が入るのを防ぐというスパッツ本来の機能が失われ、靴の中は雪だらけ。当然足は冷たいだろうに誰も泣き言一つ云わない。辛抱強いというか、アホというか、よっぽどのがないと思えないのだろうか。雪山3回目だというのに、過去2回の経験(辛さ)が生かされているとは思えない。

此処から天狗岩山頂までは、標高差約300mで急登もなく無雪期だと1時間はかから

ないのだが、今回の登山では強烈なアルバイトを強いられた。平坦な部分でも踏み抜きが多く、ちっともピッチが上がらない。登りではトップが重い腐れ雪の、太股辺りまで潜るラッセルに悪戦苦闘。必然的にユックリなペースなのにラストを歩く筒井Tとの間は次第に離れる。漸く天狗岩の山頂に辿り着いたのは金松寺山頂を出てから1時間40分後の10時20分のことであった。更に10分ほど遅れて筒井Tも疲労困憊の様相で到着し、余程辛かったそうで、やはり此処でも雪山卒業を再度大々的に宣言した。

小生にとっての想定リミットタイムを過ぎているのだが、誰もピストンにしようとは言い出さない。記念写真の撮影をしたり、エネルギー補給をしたりした後、大明神山に向かって出発する。雪の深さが気になるが、ほぼ真南に向かうルートで所詮下山路。尾根筋さえ外さなければ大丈夫だろうと考え歩き出す。天狗岩からは本来登山道がなく、ネット上の記録によると深い笹に苦しめられ途中の顕著な1800mピークまで約1時間、大明神山まで更に1時間かかるとなっていたが、笹が雪で潰されているし、下りだから多少ましであろうと考えたが甘かった。南向き斜面の下りはそれほど積雪が多くない物の殆ど踏み抜き、腐れ雪の膝上もしくは太股までのラッセルの連続、おまけに時々雪に隠れた倒木にまで苦しめられる。1800mピークまではとても1ピッチでは届きそうもないので手前のピークで休憩。此処まで来たらもう引き返すより、前に進んだ方が距離が短い。

此処から大明神山までは結構アップダウンがあることが地図からも読み取れるし、見えている地形もそのことを物語っている。スピードアップを図るためラッセルの交代の頻度を早めるように指示を出す。則ちトップは遮二無二進む。息が揚がり足が上がらなくなったら後尾にさがる。リーダーのS君は、常にセカンドの位置をキープし、地図とコンパスを駆使して進行方向のコントロールセンターを務め、残り5人でラッセルの先頭を交代する。そうした処、小生らロートルは付いていくのに必死な位速くなった。標高が下がるにつれ降り部分(南向き斜面)の残雪は少なくなったがその代わりよく滑る。バランスの悪い生徒はしょっちゅう転んでばかりだが痛いと言わない所がいじらしい。きっと彼方此方アザだけになった事と思われる。登りとは言えば、北斜面なので残雪が多く強烈なラッセルを強いられる。平坦部分も同様で大明神山は見えていてもなかなか近づかない。結局途中更にもう一回の休憩を挟み、大明神山頂に到着したのは午後1時



半過ぎで、天狗岩出発から3時間近くを要してしまった。山頂周辺は広々と平坦で残雪もかなりである。一番高そうな部分に、山頂の標識はないものの石仏や石碑が安置されており、雪の重みで半分壊れた小さな社もあった。山の名前の如く信仰の山であったことを伺わせる。近くの木に巻き付けられた赤テープに登頂記録日時が記されており、昨年の厳冬期のものであった。